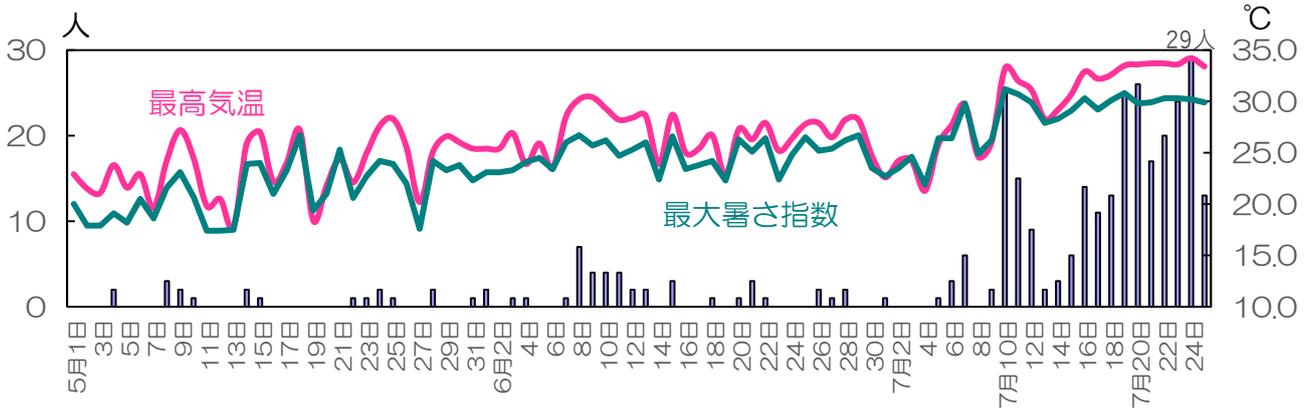


熱中症情報

<搬送数>

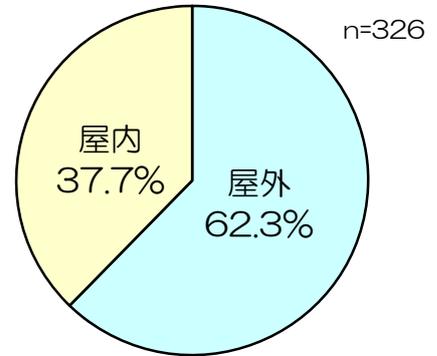
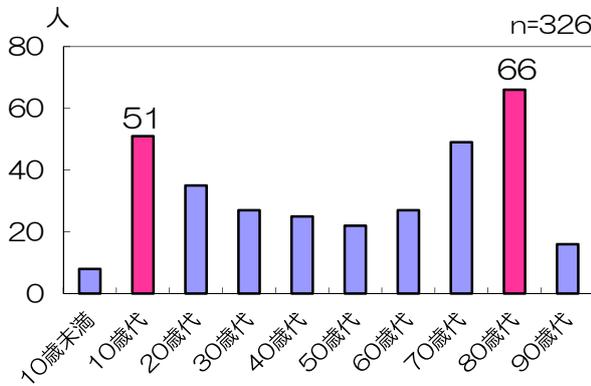
令和3年5月1日～7月25日までの搬送数（消防局データを使用）は、計326人（5月19人、6月42人、7月265人）でした。7月はじめは搬送数が少なめでしたが、7月16日以降、最高気温が32℃を超え、搬送数も増加傾向です。7月24日は、最高気温が34.2℃で、搬送数も多く29人でした。しばらくは暑い日が続きますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が66人(20.2%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外62.3%、屋内37.7%で、次が10歳代で51人(15.6%)でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度> 軽症60.7%、中等症35.6%、重症2.8%、重篤0.9%でした。高齢者(65歳以上)の中等症以上の割合が56.6%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

